昭和十八年七月一日

大和民族を中核とする世界政策の検討

―特に民族人口政策を中心として―

（第三分冊）

厚生大臣官房總務課

序

本輯「大和民族を中核とする世界政策の檢討」は曩に假印刷に附せし「戰爭の人口に及ぼす影響」の續篇として「厚生省研究所人口民族部」において特に民族人口政策の見地より編纂せるものなり。

第一篇より第七篇に亘る本輯は製本の都合上之を左の如く三分冊とす。

- 第一分冊
  - 第一篇　總説
  - 第二篇　大東亜民族事情
  - 第三篇　世界各國の民族事情
- 第二分冊
  - 第四篇　自然環境と民族の關係
  - 第五篇　民族的世界觀と國家觀
- 第三分冊
  - 第六篇　大和民族を中核とする世界政策
  - 第七篇　大東亜建設計畫

資料入手其の他の困難を超えて特に怱々の間に取纏めたるものにして行間統一を缺きたるの恐れ無きにしもあらざれども右の廣汎なる夫々の問

厚生省研究所人口民族部調

「大和民族を中核とする世界政策の検討」

（特に民族人口政策を中心として）

目次

題に對し一應の集成に達し此處に取敢へず假印刷に附し以て部内の参考に資するものなり。

昭和十八年七月一日

厚生省研究所人口民族部

第六編　大和民族を中核とする世界政策

第一章　民族人口政策

第一節　生活圏の拡大

我々は歓喜と感激とに充ちて神武天皇御即位紀元二千六百年の祝典を聖戦酣なうちに迎へた。

戦争は―世界史発展の根本法則である　あらゆる世界の偉大な國家がさうであつたが如く、我國も亦日清・日露の両戦役、第一次世界大戦等の外部からの絶えざる衝撃を克服することによつてその國運の発展を実現して来た。

然るに今や欧洲戦乱に於いて没落的運命に瀕してゐる英帝國は　依然日本に対する敵性行為を止めず、更に米國の援助によつて東亜に於けるその領土　権益を擁護しようとし　米國も亦その有史以来の最大の経済的富國なるに拘らず、最も経済的資源に窮乏し且支那事変の処